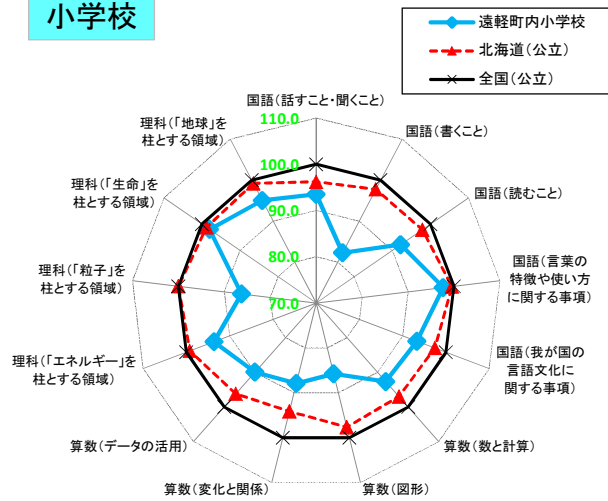


■遠軽町内の状況及び学力向上策（小学校数：8校、児童数：143人）（中学校数：7校、生徒数：138人）

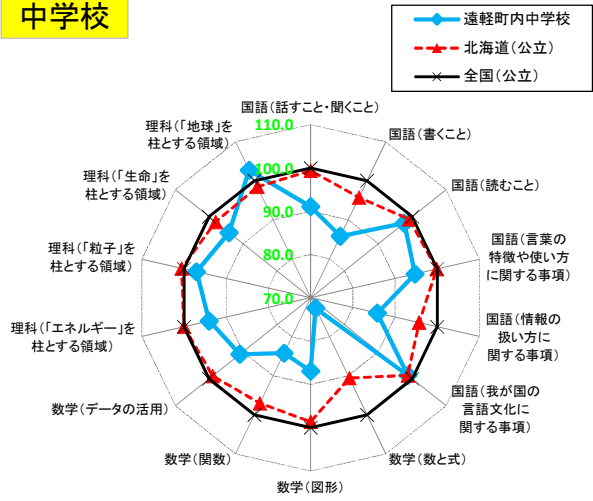
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

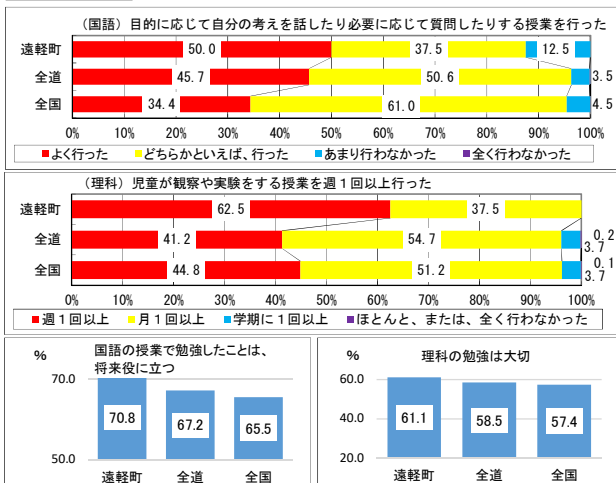


中学校

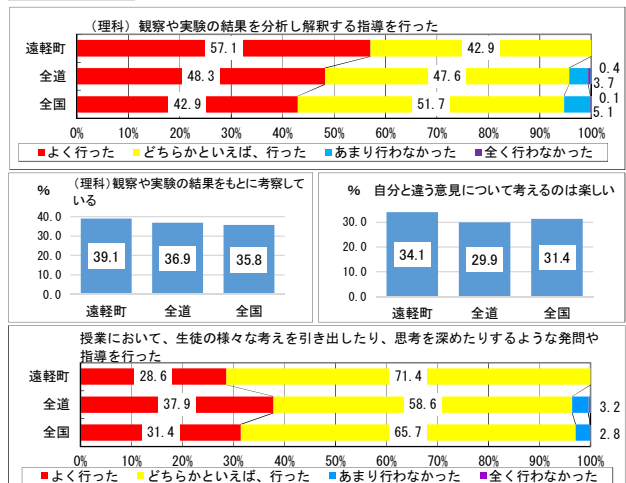


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、児童の学習の理解が深まり、国語の授業で学習したことは将来役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で最も全国の平均正答率に近づいたと考えられる。

町内の半数以上の学校が、理科の授業において、児童が観察や実験をする授業を週1回以上行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科の勉強は大切だと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。

中学校

理科の授業において、町内の半数以上の学校で観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、観察や実験の結果をもとに考察していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答する生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「読むこと」の領域で全国の平均正答率に近づいたと考えられる。

【遠軽町の学力向上策】

- ◎ コミュニケーション能力の向上と国際理解教育の推進
- ◎ 家庭と連携した学習の習慣化と規則正しい生活づくり
- ◎ 外国語活動における言語や文化に対する理解を深めるための英語指導助手の配置
- ◎ 確かな学力の育成・定着を図るための教育用ICT機器の活用